

自己申告書を書こう！

【テーマ】
あなたは、中学校等の生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。

公立高校入試に必要となる自己申告書。先日、大阪府教育委員会から、そのテーマが発表されました。

自己申告書は、入試の際、ボーダーゾーンの可否判定の資料の一部となるほか、面接時にも参考資料とされ、合格者の入学後の指導を行っていくための資料としても活用されます。

高校は、どのような生徒を求めているのか、3年間でどのような生徒を育てていこうとしているのかをアドミッションポリシー（裏面参照）として公開しています。

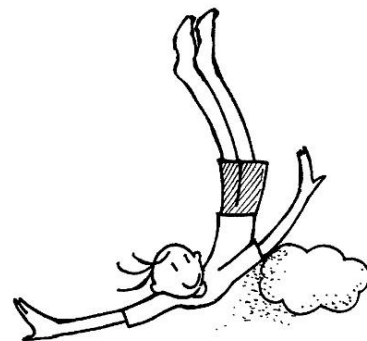


自己申告書のテーマは、みなさんが将来をイメージして、高校の3年間でどのように過ごそうとしているのかを見るものです。中学3年までの経験を踏まえて、将来（3年～10年後）の自分の姿・理想像を思い描いてみてください。そのためには、高校で何をしたいのか、その後の進路をどう考え、社会にどのように貢献していこうと考えているのか。これらのイメージを具体的にふくらませてみましょう。

保護者のみなさんへ 「将来の姿」を家族で考える機会に

自己申告書を「子どもたち自身が将来を考える機会」と捉え、このテーマについて、家族で話し合ってみてはどうでしょうか。

わが子の考えを知り、家族で共有し、支えてあげてほしいと思います。子どもたちも、経験豊かな大人の意見やアドバイスを受けることで、自分の考えを整理し、より深めることができることと思います。



自己申告書を書く前に

みなさんはすでに夏休みの課題として、志望校のアドミッションポリシーから3項目選び、自己申告文を三つ作っています。下書きに入る前にもう一度読み直してみましょう。各項目の内容がテーマに沿ったものとなっているでしょうか。

各項目とも、前半は「中学校等の生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか」にこたえるもの、後半は「それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。」にこたえるものになっているでしょうか。前半は経験したことから具体的に書いているはずですが、しかし、それだけではだめです。高校から見れば、中学校の先生が書いた所見ぐらいしか確かめようもないことなのです。

高校が知りたいのは、その経験を高校でどう活かしてくれるかということです。前半は過去・現在のことで、後半は未来のことになります。「具体的に記述」することが難しい部分ですが、そこは想像力をはたらかせ、リアルなイメージ、あなただけの高校生活を思い描いてください。

分量も大切、9割は埋めよう

具体的な文字数の制限はありません、約1200～1400字（原稿用紙3～4枚）が目安です。中には、「大きな文字で書くと字数が少なくすみそう」と思う人もいるかも知れませんが、字数が少ないと、読む前から「中身が薄い」と思われますので、大きな字で書くのはやめましょう。これも高校から見れば、一目でわかることです。「中身で勝負」といいたいところでは、詩や短歌ではありません、自分の思いやビジョンを伝えるには、それなりの分量が必要です。少なくとも全体の8割、できるだけ全行埋めるようにしましょう。

書くときの最低限の注意

- 字の上手下手ではない、ゆっくり、ていねいに書く。
段落の始めは1文字あけ、行始めに閉じカッコや句読点がかかる時は、前行の最後に入れる。
一行の文字数は決まっていないが、書き始めと書き終わりの文字の大きさや文字の間隔が変わりすぎないように気をつけて書く。
中学3年生までで学習した漢字はひらがなで書かない。漢字、送りがなのまらがいいにも気をつけて書く。